IV-JAPAN

NEWS【NO.28】2016.11.30 発行

目　次

1ページ～2ページ…JICA草の根パートナー事業完了報告　3ページ…日本研修（JICA木工職業訓練）　4ページ…タイニュース、国内活動
5ページ…カノック奨学金ドナー紹介、理事紹介　6ページ～7ページ…幸子のラオス便り、千客万来　8ページ…寄付者一覧、その他

5年間のJICA草の根パートナー事業が終了しました！

2012年OJT第2店舗ご寄付により建設

2013年カットボランティア

2014年縫製卒業制作発表会

2015年ジャパンフェスティバルで
和食の販売

2016年教科書一式18冊完成

2011年12月からJICAの草の根技術協力事業の採択を受け実施した「短期職業訓練トレーナー育成のための職業訓練プロジェクト」が2016年11月末日を以て無事終了しました。職業訓練事業は『ラオス全国で職業訓練を受けた人々が卒業後に起業・就業し、彼らが訓練で得た知識や技術を活かして自ら収入を生み出すことができるようになること』を最終目標とし、2004年からラオスの首都ビエンチャンで本格的に職業訓練事業を立ち上げ、第1・第2フェーズでそのトレーニングシステムを徐々に確立。そして今回の事業は集大成となる第3フェーズとして、5年間をかけて職業訓練所を運営する人材及びトレーナーの育成に注力しました。

当事業では大きく以下の3つの成果を納めることができました。

1. ビエンチャン都職業訓練上級コース（OJT ショップ：On the Job Training）の運営側人材の育成

職業訓練上級コースは独自の店舗（通称 OJT ショップ）を構えており、調理・縫製・美容分野の訓練生はトレーナーの指導の下、レストラン・ブティック・美容院の店舗を自身で運営することで、実際のビジネスに役立つ知識・技術・経験を身に付けることができます。上級コースは“職業訓練校”と“お店”の 2 種類の性質を持ちあわせているため、マネージャーはこの両方の管理運営をしなければなりません。当事業においては、日本人の OJT コーディネーターがラオス側カウンターパートのビエンチャン都教育スポーツ局（Vientiane capital Education and Sports Department：以下 VED）と教育スポーツ省傘下の職業教育開発機関（Vocational Education Development Institute：以下 VEDI）からそれぞれの OJT ショップのマネージャーとして配属された公務員と協働し、店舗収支記録の作成・管理方法を教え、マネジメントマニュアルを作成するなどしました。

2. ラオス全国の職業訓練実施機関のためのトレーナー育成

ラオスは国家方針として産業人材育成及び貧困削減のために職業訓練を強化しており、2014 年には新たに新職業訓練法も施行されました。首都だけでなくラオス全国での職業訓練実施が推進されていますが、現状ではまだ実際に地域住民に対し定期的に職業訓練を提供できている所は多くありません。その理由の一つとして職業訓練を提供するためのトレーナーが不在、カリキュラム・教科書が存在していないことがあります。このため、当会は地方の県教育局と協議し、将来職業訓練所のトレーナーとなる人材（公務員）をビエンチャン都にある職業訓練所に派遣してもらい、当会のサポートのもと初・中・上級のトータル 1 年間の訓練及び 3 週間の教員養成講習を受けさせ、その結果 5 年間の事業実施期間内で 25 名の人材が職業教育トレーナーとして育成されました。現在 1 都 5 県の職業訓練実施期間で実際にトレーナーとして勤務しています。

3. カリキュラム・教科書の開発・作成

今まで初級 2 か月・中級 3 か月・上級 6 か月で実施していたカリキュラムを、2014 年施行の職業訓練法に沿って Semester1：3 か月、Semester2 ：3 か月、Semester3：6 か月と変更しました。このカリキュラムを採用した場合、訓練生は Semester1+2（計 6 か月）を修了すればラオス政府が承認する“Vocational Certificate Basic Level1”の修了証を、Semester1+2+3（計 12 か月）で“Vocational Certificate Basic Level2”の修了証を取得できるようになります。国家が承認する修了証を獲得できれば、その後別の教育機関へ進学する場合に必要学習期間が短縮されたり、起業・就業の際にも確かなスキル・知識を証明することが可能となります。当事業では再三にわたるカリキュラム開発担当部署との協議・調整を経てカリキュラムを開発し、教育スポーツ省職業技術教育局(TVED)に提出。間もなく承認が下りる見込みです。教科書については調理・美容・縫製各分野の教科書に加え、上級コースのカリキュラムに組み込んだ衛生・栄養・カスタマーサービス・スモールビジネスマネジメントなども含む 18 種類の教科書を作成しました。この教科書を 900 部印刷し、カウンターパート、各県の職業訓練実施機関・団体、国際機関、NGO 等へ配布することができました。

事業終了を迎え、今改めてふり返ってみると、5 年という期間は長いようでやはり短かったように思います。人材育成というのは短期間で成果を出すことは非常に難しく、この事業でマネージャーやトレーナーに譲渡した技術や知識を維持し、今後も現在と同レベルの質を保証しながら職業訓練校を運営していけるかどうかは、正直 100%大丈夫だと確信することは難しいです。しかし少なくともカリキュラム及び教科書という、形として残るものを産み出すこともでき、持続可能な職業訓練校の運営モデルを確立することができました。この先カウンターパートが私たちの残した成果をどのように感じ、考え、発展させていくのか、彼らのやる気に賭けたいと思います。

最後に、この 5 年間支援・応援してくださった支援者・寄付者の皆様、JICA の担当者、日本人・ラオスの同僚、その他関係者全員に心からの感謝を伝えたいと思います。コープチャイライライ!!（現地調整員　大滝）

11 月 28 日　JICA 東京に於いて完了報告会

左より報告をする須田 OJT コーディネーター、大滝現地調整員、冨永プロジェクトマネージャー

ラオス木工職業訓練・トレーナー日本研修

―　JICA 地域経済活性化特別枠　―

埼玉県庁前で赤松ものつくり大学学長と

8 月 27 日～9 月 11 日の期間で日本研修を実施しました。2 週間という短い期間でしたが、様々な企業や学校のご協力の下、内容の濃い研修を受けさせて頂く事ができました。準備と実施にご尽力頂いた赤松学長をはじめとする、ものつくり大学のご支援とご協力に感謝いたします。そして、御世話になりました企業や学校の皆様にも改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、研修には 2 名のラオス人トレーナーが参加しました。1 名は IV-JAPAN 古参のスタッフ APE（エイプ）さん。彼は木工経験が誰よりも長く、とても心強い存在です。もう 1 人はカウンターパートの公務員トレーナーPHENGDY（ペンディ）さん。ハンドオーバー後のことを考え公務員トレーナーが必須で、プロジェクトのスタートと同時に配属された彼ですが、技術も指導も板についてきたため今回の派遣メンバーに選ばれました。

2 人はいずれも初めての飛行機、初めての海外渡航です。ラオスには電車はなく、ましてや地下鉄なんて尚更です。到着してからず一っと初体験ずくしです。嬉しそうな 2 人の顔を見られて同行した私も自然と笑顔になりました。

初めに埼玉県庁の国際課を訪問し、この日本研修がいよいよスタート。というのもこのプロジェクトは埼玉県との連携で行っている事業だからです。さて、肝心の研修ですが、工場見学では見たことのない最新の機械や整理整頓された工場内の様子にとても感心している様子でした。これからラオスの私達の訓練学校内の 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の徹底など、訓練学校の整備や発展にも期待がもてます。

2 日目からは 3 日間の予定で機械調整・整備の講習の実施ですが、(株)トーブ通商の野田専門家が特別に講師を引き受けてくださいました。このプロジェクトでは日本から機械を導入し使用していますが、機械の調子が悪くなると、点検する方法や修理方法に困っているのが現状でした。3 日間という長丁場でしたが、「二人の真剣な眼差しと気持ちに押されて、ついつい熱が入っちゃったよ。」と野田さん。私が見ていても、今まで見たことのないくらい必死に先生の話を聞く 2 人がとても印象的でした。

椅子張り講習では日本の椅子張りの名士、(株)イヨベ工芸社に 3 日間ご指導頂きました。研修の講師はこの道 20 年の土屋さん。3 日しかないため、最低限の技術を身に付けられるようにと、難しい課題に挑戦です。一番の難関はやはり慣れないミシンを使った縫製でしたが、結果は予定通り課題をクリアし、とてもキレイなものが出来上がりました。

今回の日本研修は毎日朝から夕方 6 時頃まで研修があり、さらに寮に帰ってからも 2 人は復習やまとめに 1 時間以上費やしてきました。ラオスでは残業や復習という習慣があまりないので、私もその姿勢に感動してしまいました。おかげで大変学びと実りの多い研修になったと思います。ラオス帰国後すぐに既存の機械の調整と修理を行い、残っていた 2 名のトレーナーにも技術をシェアする事ができ、この研修の成果を実感しました。

また、富山県高岡万葉ロータリークラブの皆様のご支援でミシンを頂き、これからの授業で活用する計画を現在立てています。最後に、御世話になりました斉藤理事、佐復元理事、光成青年理事、室井元現地コーディネーターにも併せて感謝いたします。

11 月 3 日(木)に資格通信講座の『(株)フォーサイト』が当会を訪れました。同社は CSR の一環で、ラオスでの学校建設を支援中ですが、今回は当会の職業訓練事業を見学しました。VED 副局長からラオスの職業訓練の現状について聞いた後、VED 初級、OJT1、木工を見学されました。同社はラオスの地方県からビジネス人材が出にくい現状を調査中だそうです。当会が目指してきた『起業家育成』のための職業訓練は、ビジネスのプロである同社から見ても、意義のある取り組みであり、今後は当会への支援も検討してくれるそうです。今回の訪問の様子は同社の HP に掲載予定。　http://www.foresight.jp/　　（木工インストラクター　山本）

ものつくり大学にて機械調整講習の様子

ラオスの訓練センターで機械の調整

ミシンに真剣に取り組む 2 人

タイ・ニュース

―冨永代表のタイ訪問―

8 月 23 日、タイ財団理事会がバンコクで 7 人の理事の出席で開催されました（写真①）。今年も 40 人の必要な子どもに奨学金を支給します。子どもの半分の親は、ほとんどがドラッグの売人か使用の罪で服役中です（写真②ピブン福祉財団を通して支給される奨学金の贈呈式）。半分はチェンライ県のモン族の子どもたちに支給します。

8 月 26 日、バンコク 2 日目は奨学金児童の通う小学校を訪問しました（写真③）。20 バーツ（約 60 円）の 無料給食が地方自治体から支給され、私もカノムチン（米粉の蕎麦）を試食しましたがとても美味しかったです。英会話の先生はフィリピンから来ていました。一昔前は無料給食や外国人教師など考えられませんでしたがタイも豊かになりました。

国内活動

●アジア理解講座　フィリピン料理教室開催

メニュー
- **アドボ**（フィリピン風肉じゃが）
材料：手羽元、じゃが芋、玉ねぎ
- **シニガンスープ**（野菜たっぷりスープ）　材料：豚ロース肉、玉ねぎ、茄子、人参、オクラ、小松菜など
- **トロピカル・デザート**（フルーツサラダ）材料：フルーツカクテル缶詰、生クリーム、ベビーチーズ、ナタデココ

フィリピン人の講師

9 月 24 日（土）さいたま市立桜木公民館の調理室にて大人 9 名と子供 2 名の参加でフィリピン料理教室を開催しました。参加者の半数はフィリピンに行かれたことがあるそうです。まず、**フルーツサラダ**を作り、冷蔵庫で冷やしました。特徴はフルーツ缶に生クリームと練乳を加えベビーチーズを入れることです。そして皆さん手際よく**シニガンスープ**の野菜、肉を準備し作り始めました。シニガンスープの素が日本では手に入りにくいということですが、埼玉では南浦和や北戸田にフィリピン食材が手に入る商店があるようです。同時にフィリピンの肉じゃが、**アドボ**の調理に取りかかりました。今回は鳥の手羽元を使いましたが、手羽先でも豚でも、両方入れる家庭もあります。ポイントは酢を入れて肉を柔らかくすることです。　（※　詳しいレシピをご希望の方は IV-JAPA 事務局までご連絡ください。）

●10 月 1 日（土）、2 日（日）2016 年度グローバルフェスタ参加（於；お台場センタープロムナード）

外務省主催による国際協力を広く楽しく知ってもらうことを目的としたお祭りに例年出展しています。学生理事と若いボランティアの皆様にラオスの民族衣装を着てお手伝い頂き、1 日目は雨の中、2 日目は暑い中、団体の紹介や民芸品の販売をがんばりました。ものを売ることの大変さや、他団体の様々な活動や国際色豊かな食べ物などに触れ、交流を深めることもできました。

●10 月 2 日（日）埼玉県国際フェアー参加（於;さいたまスーパーアリーナ）

昨年度よりスーパーアリーナを会場とし、県内団体（コープみらい、埼玉県物産観光協会、医療生協さいたま生協）と同時開催イベントとなりました。今回は埼玉県と連携している木工職業訓練事業の広報を主目的に、ラオスより持参した訓練生が製作した椅子と写真展示を行いました（右写真）。グローバルフェスタと開催日が 1 日重なり、二手に分かれて IV の活動紹介やラオス小物販売に多くのボランティアにお手伝いして頂き感謝いたします。

カノック奨学金ドナー紹介

塩川　悠子（東京都町田市在住）

私が IV-JAPAN と関わることになったのは、齢がばれてしまいますが、19 年前の高校生の時にタイ・ワークキャンプに参加したことがきっかけです。現地で過ごした時間はあの頃の私には刺激的で何もかもワクワクしたことを覚えています。今振り返るとホームステイでの経験や、現地の人々と交流できたことが私の人生を大きく変えてくれました。私はどこか冷めたところがあり人とコミュニケーションをとるのが苦手でした。しかし言葉が分からなくても思いを伝えようとする気持ちは、一緒に時を過ごすことにより通じ合うことができることを実感しました。キャンプの参加後モヤモヤしていた殻を抜け出すことができ、興味を持ったことに積極的に自分から動くようになった気がします。多分キャンプに参加していなければ、後に青年海外協力隊に参加しなかったと思います。

私が大学生までは親が奨学金ドナーでしたが、社会人となり私が引き継ぎました。いつかはラオスに行きたいと思っていましたが、あっという間に時が経ち、私自身も母となり、育児に追われる日々でラオスの方々の姿を忘れてしまうこともあります。しかし毎年送られてくる奨学金生の手紙を受け取り読みだすと、ふと日常の忙しさを忘れることができ、彼らから清々しい空気をもらっています。手紙からは真剣に訓練に取り組んでいる姿が読み取れ、教育が彼らの人生を大きく変えたことが分かります。教育の機会を増やす活動をこれからも応援したいと思います。

先日電車で大人同士が言い争う光景を目にしました。原因は本当に些細な事でした。最近日本はなんだか思いやりにかけてしまっているような気がして寂しい気持ちと、ラオスの若者を思い出し恥ずかしい気持ちにもなりました。

ワークキャンプで出会った目をキラキラさせていた若者達、そして現在訓練に取り組んでいるラオスの若者達から私は元気をもらっています。いつしか子どもを連れてラオスへ行きたいものです。

理　事　紹　介

IV-JAPAN との関わり　　武井　貢士

2011 年 1 月に弊社は法人格を取得致しました。

私は冨永さんのご子息と高校が同じで現在も友人として交流があります。 彼から冨永さんの活動は聞いていました。ある日彼からラオスに行ってみない？と誘われ 2011 年 3 月 13 日、初めてラオスを訪れました。

職業訓練所を見学し、冨永さんの引率のもとビエンチャン、ルアンパバーンと案内していただき、後発開発国としての側面、自然豊かな面、温厚な人たちそんな印象でした。

日本では東日本大震災が発生して 1 週間ほど経過した頃帰国し、被害の大きさを目の当たりしました。何か自分に出来る事、支援になる事はないかと思っていると冨永さんから宮城県の石巻市への生活物資の輸送の依頼を受け、快諾しました。石巻市は特に被害の大きな地域であの光景は今でも忘れられません。他にも震災難民の救済車輌の貸し出し等、人の助けになることの意義を感じました。

その後も時間を作りラオスを訪問し、IV-JAPAN の活動に理解を深めていく中で、先進国の国に生まれ、会社を経営する立場にあり、その為の知識が国際協力に活かせる部分はあると思いました。初めてラオスへ行ってから 5 年が経ちました、今年も 5 月に訪問しましたが建築中の多くの建物、車の数にはびっくりです。ですがひとたび一本裏路地に入ると貧困の生活があります。まだまだ国民の生活水準をベースアップするには時間がかかりそうです。同窓会レストラン（IVNEWS25 号で紹介）の立ち上げのタイミングを持ちまして微力ながら冨永さんの力になれればと、同時に学ぶ事も多いという思いが募り今日に至ります。

幸子のラオス便りNo. 34

ーラオスの現代ファッションショウー

2016 年 9 月 6 日から 8 日まで世界中でラオスが注目されました。アセアンサミットと東アジアサミットの議長国をラオスが務めたからです。安倍首相はじめアメリカ大統領の初めての訪問となってオバマ・フィーバーが起こりました。連日テレビでもラオスが報道されました。小国ラオスは各国代表団の宿舎の確保も大変でしたが、都心部の道路封鎖もあり、学校は 1 週間休校になりました。

そんな興奮も収まらない翌週の 9 月 12 日から 1 週間、第 3 回 ”Lao Fashion Week” が開催されました。今年は 20 人のデザイナーの発表がありましたが、ラオス人のデザイナーはもとより、タイ、ベトナム、カンボジア、インドネシア、シンガポールからも有名なデザイナーが招待され、年々国際的に広がりを見せています。

ドレスの傾向としてはデザイナーにもよりますが、普段でも着られそうなカジュアルのものや結婚式に良さそうなロングドレスなどもたくさんありました。ラオスの女性の伝統衣装の「シン」という巻きスカートが日常的に着られていますが、無地のブラウスと組み合わされるのが普通です。オーダーメードがほとんどですので、ラオスでは縫製業が健在です。今、流行っているブラウスは前開きも後ろ開きも 1 センチ間隔のくるみボタンをいくつも使用したデザインです。ジッパーは野暮ったいとあまり使いません。後ろ開きの場合は誰かにボタンを留めてもらわないと着ることができません。

日常、女性は、警察官や軍人でも制服はシンなので職場にはいて行きます。学校の制服もシンです。そのような伝統的なスタイルに挑戦するかのように、ラオスファッションウイークの作品は日常着やバカンス用のワンピース、ブラウスやパンツスタイル、パーティ用のロングドレス、ウエディングドレス等が主流です。ラオス人デザイナーの衣装はラオス伝統の手織り絹地をワンピースの一部に使ったりして、ラオスらしさも表現されていて、それでいてお洒落着としても活用できそうです。

―ラオ・ヤングデザイナー開発プロジェクト―

このファッションショウの特徴は、有名デザイナーのデザインだけでなく、ファッションショウの中には無名のヤングデザイナーの作品が含まれています。

「ラオヤングデザイナー開発プロジェクト」も同時に開催され、今回が 3 回目になります。

全国にラオスの若手デザイナーの作品を公募して優勝者はパリの「エスモード」デザインカレッジに半年間留学することができます。去年と今年の上位優勝者がプロに交じって自分の作品を初めてショウで披露しました。つまりファッションデザイナーとしてのデビューの機会を与えられたわけです。私は「ラオスヤングデザイナー開発プロジェクト」の審査員として毎年審査に立ち会いますが、ほとんどが 10 代の若い人たちで、デザイン学校もラオスにはないのに、上手にデザイン画を書き、実際使用する布見本も付けて応募します。

書類選考で最終審査に残すのは 10 人ですが、最終審査会場ではパワーポイントを使い、与えられたテーマに従って自分の作品を説明します。その他にも、公平を期するため即席でテーマが与えられ、その場でデザイン画を書きます。それらを総合して各審査員が点数をつけ、最高点を取得した人が優勝し、留学することができます。

エスモ―ドカレッジの授業料はフランス大使館が提供し、航空券代や 6 か月間のホームスティと滞在費は、ファッションショウ最終日に皆が寄付した物をオークションに掛けて、その売り上げで賄います。私も毎年着物を寄付していますが、びっくりしたことには着物の人気が高く、無地の綸子が 1 着 15 万円にもなりました。着物以外にもお重箱を出したこともあります。漆ではなくプラスティックの安いものですが、デザイン画がきれいで受けたようです。日本の物はあこがれなのでしょう。

このファッションショウは色々な人や企業の協力で成り立っています。全モデルのメークアップはラオスに進出しているフランスのイブ・ロシェー社が最近開発した自然化粧品を使い協力、モデルのヘアーは日本人のスタイリストが担当しました。

外国のデザイナーたちの宿泊には多くのホテルが無料提供し、大イベントを成功させました。日本から見えた方が、こんな華やかなファッションショウが 1 週間も途上国ラオスで開催されているとはと、びっくりしていました。30 人のモデ

ヤングデザイナーの優勝者
（18 歳）と彼のデザイン

ルはラオス人ですが、身長 170cm 以上でとても細身です。おまけにヒールが 15cm もあるようなハイヒールを履いています。誰も転ばなかったのは良かったです。私は最前列のキャッツウオークと呼ばれるステージの前で拝見できました。どのモデルも無表情でにこりともしないのですが、それがファッションショウなのでしょうか。日本で経験がないので不思議に思いました。よく見ると布にしわが出ていたり、モデルのサイズに合わせるためピンで留めてあったりと、クオリティはまだまだです。今後ラオスでも周辺国のように現代ファッションが主流になるのではと、ちょっと心配になりました。

私はこのファッションショウに呼応して、1 日だけお茶会を開きました。茶道人口は無いに等しいビエンチャンで、日本人会等でボランティアを募り、事前のお稽古を 4 回実施して、何とかお点前、半東、お運びの人を確保して、お茶会には多くのラオス人、外国人に参加してもらいました。ラオス人はほとんどが初めての抹茶体験でしたが、とても美味しいと言って頂きました。ボランティアの日本人には浴衣から訪問着まで一人ひとり別々の着物を着て頂き、日本文化を紹介する良い機会となりました。抹茶は日本から持参しましたが、お菓子はおはぎの小さいのを作りました。ラオスには小豆やもち米がありますので、現地調達できます。

お茶会の様子

千客万来

【JICA 海外教師研修制度】2016 年 8 月 2 日

今年は沖縄県から 6 名の教師の方々が JICA 沖縄センター主催の研修に参加され、当会を訪問されました。職業訓練事業について説明を行った後、実際に訓練所を見学し、縫製の訓練生が営むブティックでは数名の参加者の方が前日に訪れたウドムサイ県で購入したラオスの織の布を使い、シン（ラオスの伝統巻スカート）の仕立てをオーダーしてくださいました。その後仕立てたシンを身に付けながら教壇に立っていらっしゃるのでしょうか。

【ワールドスカラーシップオーガニゼイション・山口正人氏】2016 年 8 月 10 日　当会を訪問されました。

【文京学院大学学生 3 名】2016 年 8 月 29 日～9 月 2 日

今年も例年通り、文京学院大学から学生 3 名が同校の“異文化共生フィールドスタディズ”というプログラムでラオスに滞在し、インターン及び OJT 体験をしてもらいました。今年は ASEAN 首脳会議と日程が重なってしまったため、1 週間という短い期間でしたが、中身の濃い体験ができたのではないでしょうか。この経験が将来どこかで役立ってくれればいいなと思います。

【内閣府国際青年育成交流】2016 年 9 月 21 日

16 名の精鋭の日本青年団が当会を訪問し、IV-JAPAN が実施している国際協力事業について紹介をさせていただきました。初級・中級コースも見学し、上級コースでは調理の訓練生が作った松花堂弁当をランチで召し上がっていただきました。さらには２、３人の方は美容分野の訓練生によるブティックでシャンプーをされたりと IV-JAPAN 視察見学フルコースで満喫していただいたようでした。

【東日本銀行顧客代表団の御一行 17 名】2016 年 11 月 1 日～2 日

IV-JAPAN の職業訓練所を訪れ、美容初級コースのシャンプーの施術に大満足して頂きました。3 人の方から多額のご寄付も頂きました。職員と相談して壊れていた洗濯機を 2 ヶ所の OJT①②センターに、 木工機械も追加することになり、大変ありがとうございました。左写真はご一行の御一人（株）イヨベ工芸社の五百部社長と日本研修では大変お世話になりました木工トレーナー2 人です。ラオスでの再会となりました。

【資格通信講座の(株)フォーサイト】2016 年 11 月 3 日

※ 3 ページ目木工事業欄に詳細を記載。

【高岡万葉ロータリークラブ】2016 年 11 月 15 日

5 回目となるラオス訪問で、今年は調理・美容・縫製分野の訓練所に加え、木工事業の活動も見学して頂きました。また OJT①②両店舗及び木工訓練所へのミシン 3 台の贈呈式も行いました。

お　知　ら　せ

・「ＮＨＫラジオ深夜便」　～当会代表　冨永幸子によるラオスレポート～

次回放送は　12 月 9 日（金）の深夜（12 月 10 日（土）午前 0 時 10 分頃）
「12 年間のラオス職業訓練の総括」について当会冨永代表がお話しする予定です。
皆さまどうぞお聴き逃しのないよう！

☆ご協力ありがとうございました!!☆

―順不同・敬称略

♡♡カノック奨学金ドナー紹介 ♡♡（2016/8/1 から 2016/11/30 まで）

福永文代(2 口)、太田榮次（2 口)、黒山真弓（2 口)、塩川悠子、五十嵐香苗、小野寺さとみ（4 口）
又吉ミチ、中村英一

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2016/8/1 から 2016/11/30 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

伊藤裕子（200 万円)、富山県高岡万葉ロータリクラブ（30 万円)、五百部喜作（7 万円)、鈴木是和（3 万円）
石井直子（2 万円)、大久保和男（1 万円)、北條正子（1 万円)、中井桂輔（1 万円)、小森萌香（1 万円）
青少年国際交流推進センター（1 万 6 千円)、千田彩華（1 万円)、五十嵐香苗（8 千円)、黒山真弓（6 千円）

＜編集後記＞

4 ヶ月に 1 度の機関誌発行の度、季節の移ろいを強く実感します。そして過去の同時期に思いを巡らし「あー また老けた」と当たり前を確認しています。ただこの振り返りは無駄な事ではありません。無理やり視点を変えると IV－JAPAN がラオスで実施中の事業が益々熟成されてきたという事です。そんな中 5 年間の 3 種の職業訓練事業は終了しましたが、私が国内調整員を担当している木工職業訓練事業は来年の 3 月まで続きます。現地スタッフは国内スタッフが想像できないような苦労を経験したことと思います。本当にお疲れ様でした。そもそもこの空間は“編集後記”というより“つぶや記”欄として私的に使用させていただいているようで恐縮ですが、今後もお付き合いの程どうぞ宜しくお願い申し上げます。（事務局　井藤）

＜随時会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー　　年 1 口　**12.000 円**以上
② 国際協力費又は運営費ドナー　　★個人 年 1 口　3.000 円以上　　★団体及び法人 年 1 口　10.000 円以上

・申込方法（銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します）

郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　（※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。）
（普通）　口座番号:5038052　　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

日本事務所　開所時間 午前 10 時～午後 5 時
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612　FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX ： +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya
(Ra Bangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QR コード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）